

粃種づけの學習

城崎郡港東小學校 秋 山 岩 雄

八十八夜を明日に迎へた五月一日。雲量10花曇りだとこの地方でよぶ、をんぼりした第四校時。子供達の數多い視線を感じながら、粃種を教卓の上に取り出して粃種浸けの學習にとりかかる。

苗代に蒔く前にどんな事をしますか。子供達の舉手に答を聞くと、

- | | |
|------------|----------------|
| 1 水につけます。 | 3 袋に入れて川につけます。 |
| 2 鹽水につけます。 | 4 風呂の湯につけます。 |

鹽水につけるんですかと一兒が開き正すと、よい粃種を選び別けるためですとはちき返す。風呂水につけるといふのはほんとですか。はい。僕の家では早く芽を出させる爲につけられますと應答する。

水や川になぜ浸けるんでせう。眼の前につき出た舉手は

- 1 早く芽を出させる爲です。
- 2 蒔いてから早く芽が出ると雀が食ひます。
- 3 水につけた方が芽を出すのが揃ひます。
- 4 種が芽を出すのに水分が入るからです。

と元氣に答へる。此處で私はくんで來たコツブの水に寒暖計を入れながら、十五度ですと讀みあげる子供の聲につづけて、この水に浸けてゐると芽を伸して來る。水につけると粃種の中の芽が眼を醒ます。すばらしい活動を始めたす。そして伸び上つてくる。さうするとこの水は大變な力を持つてゐるものですねと、右手に取り上げたコツブの水に視線を集めつつ、不可思議な神祕さにしげしげと見入つた。

學校ではコツブにこの粃種をつける事にしませう。毎日水を取りかへるのと、ずつとほつておくのとどちらにしませうか。

- 1 毎日水をとりかへた方がよいと思ひます。さうせんと種が腐ります。
- 2 時々水はかへたらよいと思ひます。そのわけは水が冷たくなり過ぎぬから早く芽が出ると思ひます。

さうでせうか。これは一つしらべてみませう。これを研究すると、川と樽に浸けた場合どちらがよいかといふ事、樽につけた時水をかへるかかへないかななどの事がよくわかりますから。(同數の粃種を水につけた二つのコツブを用意し、一方は毎日水をとりかへ、他方は水をとりかへないで比較觀察をする事にした。)

芽が出ると言ふんだが、どこから出るでせうか。一粒を左手の指先で觀ながら、黑板に粃を略畫しつゝ、子供達の答をまつた。發表型の子供達は略畫を指しながら、右上肩といひ右下と

いひ、左上肩といひ、左下と四通りにわかれた。どことも決定しかねて考へこんでゐる子供も多い。私は別の大量にある穀を觀察用に渡しながら、まち構へた子供達に、それでは穀をこの圖のやうにおいて、そつと殻をはぎながら、今一度考へてみなさいと言ふ。子供達は指先・小刀・針・鉛筆の先で穀皮をはづしながら、先生、先生と言ひ出した。芽は此處にあります。それで穀の此處から出ます。全体の觀方がMの考へに一致した。

それでは芽と根はどちらが先に出るだらう。

- 1 根が先に出ます。(ほとんど)
- 2 芽が先に出ます。

芽が先に出るといふ觀方と、根が先に出るといふ人とゐますが、穀の立場から言ふとどちらか先に出た方が都合がよいでせう。

- 1 根が先に出て土の中にはいつて養分をとれるやうになつてから、穀の中からも養分をとりもつて、芽を出した方がよいと思ひます。さうせんと芽だけ出てゐても水の中どころろ轉つて大きくなれません。

Nの考へに皆が同意する。

N君。實地に觀察した事がありますか。

・觀た事はありませんが、その方がよいと思ひます。

これはよい問題です。穀種の根と芽のどちらが先に伸びるかは、穀の蒔き方に大變關係がありますね。これは十分觀察する事にします。

それではコツブに水を入れて浸けませうか。

・先生。良い穀と悪い穀を選びわけてから、良い穀だけ浸けた方がよいです。

よしよし。ではどんな方法で選びわけますか。

- 1 水の中に入れて浮ぶのは捨てます。
- 2 とうみであふいで軽い種はとばします。
- 3 鹽水を作つて丁度軽い穀種が選り別けられる位の鹽水でわけます。
- 4 手でよります。

これだけで全部です。一粒一粒數へながら、良い種をわけませう。小さい指先が動く。五十粒の十分實のはいつた穀と、十八粒の不十分な實入りの穀とにわけた。

この穀はどの位水を吸ふでせうか。はてと子供達は頭をかしげた。

- 1 初めにはかつておいて芽を出したら、その時水からあげて又はかつたら、水をなんぼ吸つたかが、その差をみればわかります。

- 2 Oはさうだなあと、Fの考へにあひづちを打つ。

そこでFの分團に、水を吸ふ分量は種の種類で異はないか。芽と根はどちらが先に出るかを研究させる事にした。

五十粒が1.4gある。水温十五度。穀をコツブにつけ終つてそつと見たら、白い丸いぶつぶつがいつばい穀種に出來てゐた。